

2019年5月10日
環境社会配慮助言委員会委員長 原嶋 洋平
担当ワーキンググループ主査 源氏田 尚子

フィリピン国新マクタン橋建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・日時：2019年4月26日(金) 14:00～17:26
- ・場所：JICA 本部 (1階 111 会議室)
- ・ワーキンググループ委員：石田委員、源氏田委員、米田委員
- ・議題：フィリピン国新マクタン橋建設事業(協力準備調査(有償))に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・配付資料：
 - 1) フィリピン国新マクタン橋建設事業準備調査及び詳細設計調査(スコーピング案)
 - 2) Mactan Channel (Cebu, Philippines) Environmental Monitoring Insights from a Multisectoral Stakeholder Participative Approach Towards An Effective Management
 - 3) 回答表及び別添資料
- ・適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010年4月)

全体会合(第102回委員会)

- ・日時：2019年5月10日(金) 14:00～15:23
- ・場所：JICA 本部(1階 111・112 連結会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 交通需要予測に基づき、第四マクタン橋と沿岸道路の車線数の妥当性について DFR に記載すること。

代替案の検討

2. 沿岸道路周辺では埋立事業が計画されているが、今後最新の情報を確認し、合理的と考えられる範囲で生態系や海域等への累積的影響を DFR で整理すること。

環境配慮

3. 現地で入手可能な長期的かつ季節性を考慮した鳥類の観察データに基づき、鳥類の生息状況について確認し、DFRに記載すること。

4. 事業対象地は Important Bird Area (IBA) に含まれているため、鳥類の調査結果を踏まえて工事時期並びに供用時における鳥類のモニタリングの実施について検討すること。

5. 雨季と乾季の動植物相の違いについて、専門家にヒアリング等を実施し、生態系に関する現地調査の実施回数を2回（雨季と乾季それぞれ1回）とすべきか検討すること。

6. 事業の対象地域等において干潟、マングローブ林等の自然環境改善方策を検討し、DFRにて提言すること。

社会配慮

7. 漁民とのフォーカスグループディスカッションや漁業組合へのインタビュー、並びに水産局の出先機関や地域の行政機関、仲買人などの関係者から情報収集を実施することにより、漁業および養殖従事者の漁業・養殖規模、魚種別漁獲量、経営体、収入、生計等の漁業・養殖業の現状について可能な限り調査し、財産や収入に影響が想定される場合には、適切な補償方針を検討すること。

以上